

【児童への話】

皆さんは腹話術というのを知っていますか？

始まりは、古代ギリシャと言われていました。人が話していないのに声が聞こえる現象を「お腹から声が出ている」と考え、「腹話（ventriloquism）」という言葉が生まれました。当時は芸というより、神のお告げや不思議な力のよように思われていたそうです。

今日は、腹話術で有名な いっこく堂 さんの話をします。

人形とおしゃべりしているように見える、あの人です。

（ここで、1，2分間のいっこく堂さんのインタビュー動画を見せました）

いっこく堂さんは、最初からうまくいったわけではありません。
お客さんの前で腹話術をしても、ほとんど笑ってもらえなかったそうです。
普通なら、「もうやめようかな」と思ってしまうよね。

でも、いっこく堂さんはあきらめませんでした。
「どうしたらもっと面白くなるだろう」と考えて、毎日少しずつ工夫しました。
そしてついに、声が少し遅れて聞こえるという、世界でもめずらしい腹話術を作りました。

いっこく堂さんは、こんなことを言っています。
「小さな工夫を続けると、大きな芸になる。」
勉強でも運動でも、最初はうまくいかないことがあります。
でも、少しずつ工夫を続けると、できることが増えていきます。

私も見様見真似でやってみましたが、いっこく堂さんには到底かないません。
いっこく堂さんは、きっと血のにじむような努力を重ねてきたのでしょう。

逆の見方をすると、努力を重ねたら今はできないことも多くのことができるようになるということですね。

みなさんも、できないからすぐにあきらめるのではなく、小さな工夫を続けながら学年末のまとめをしっかりとしてください。

【本講話のねらい】

今日は今年度最後の全校朝会でした。学年末のまとめをしっかりと行うように、という話ではなく、いっこく堂さんの名言をもとに子どもたちに伝えました。

正直なところ、最近腹話術をする人が表舞台に立つことは少ないですが、いっこく堂さんは一過性の人気に驕ることなく、英語での表現やものまねにもチャレンジするなど、腹話術をする人のステータスをずっと上げ続けている方の一人です。

常に「もっと面白くするために小さな工夫を継続する」といういっこく堂さんの姿勢は、子どもたちも教職員の我々も見習うことがとても多いと感じています。